

熊本県下益城郡砥用町方言の 比喩語について

井上博文

はじめに

1. 調査対象地；県都熊本市より約40km南東の、九州山地の麓に位置し、農林業を産業とする（ほとんどが兼業）山間の集落である。
2. 調査年月日；平成5年1月14日（19:00～24:00）
3. 教示者；友田秀夫（m.T.12）^ア、友田ツサコ（f.S.4）
井上益男（m.S.2）、井上春江（f.S.7）（調査者の両親）
4. 調査者・調査場所 井上博文 教示者宅
5. 調査方法・調査時の様子；配布の調査票に基づく面接調査。補いとして、これまでの調査者の調査で得られたものと山口白陽編『もっこす辞典』（1966 “呼ぶ”の会）所収の比喩語を提示し使用の有無を確かめた。雑談をまじえつつ、くつろいだ雰囲気の中で行う。
(注、「男性で大正12年生まれ」であることも表す。昭和は「S」、女性は「f」で示す。)

I. 自然現象

- 1 日照り雨 ヒフテルアヌ・ヒフテリアヌ
- 2 入道雲 ニュードーダモー ダイダレン（大くれ?）
- 3 旋風 タツマーキ
- 4 霜柱 シモバシラ
- 5 つらら ホダレ（穂垂れ） 穂が垂れているようだから。
- 6 北斗七星 マース（舂） 酒屋の舂に似ている。○ウ'ツクー'シユ 'マースノ
デトル 'ゾーイ'。アシタ'ワ ヒ'ヨリヤ ヨカ ゾー'イ。（f.S.7）
- 7 昴 特定の言い方はない。○イ'サギー コンヤワ ホッサンノ イッピヤ デ'
トツ。（m.T.12） なんと今昴星たくさんでいる。
- 8 流れ星 ナガレボース

II. 動物

- 9 かわはぎ ものを知らない。○ヤ'マンモンノ シ'ラー'ン モ'ン。（m.T.12）
山の蛙（蛙のもの・こと）知らないもの。
- 10 ひらめ ヒラヌ
- 11 ひきがえる ウシワケ下（牛ワケ下） 牛のように大きいから。普通の蛙は、タマ
ギヤク。とのさま蛙は、跳ぶ距離に注目してサンゲン下ビ（三間跳び）。
- 12 青大将 タワラヘービ（宝蛇） 家が栄えるので。他所から捕まえて来て倉など
に入れることもある。殺すようなことはしない。
- 13 とかげ トワギツ
- 14 かまきり オガヌ その様子が拝む姿に似ているから。
- 15 みずすまし ゲンゴロ
- 16 きつつき キツツキー
- 17 せきれい イシタターキ（石叩き） 尻（ジゴ）で石を叩くから。
- 18 ふくろう コーゾドツ（コーゾ鳥） コーゾコーゾと鳴く。フダロー。

III. 植物

- 19 馬鈴薯 ジャガイモ、バレイショーン
- 20 とうもろこし トーキービ
- 21 いんげん豆 インゲンマヌ
- 22 そら豆 トンマヌ・トルマヌ（たくさん採れるからか）、ナツマヌ、トルクスン
- 23 木くらげ ミミナバ（耳なば） 薄くて柔らかく、形が耳に似ているから。ナバは
茸の総称。

- 24 げんのしょうこ ゲンノショーコ 煎じてハラグスツ(腹薬)にする。
- 25 どくだみ ドクテーシ(毒消し)、ドクダニン。蛇が弱っているときなどどくだみの葉を上から被せてやると元気になるという。
- 26 いたどり サ下(里) サ下(田舎)によく生えているから。
- 27 からすうり ゴーリンポー 畑で作って食べる瓜はキンウツ(中が黄色だから)・ナシウツ(梨瓜?)と言う。
- 28 すみれ ゲザウマ 花の一部が馬の顔に似ているから。
- 29 春蘭 ラン
- 30 母子草 ハハコグサ・ハハコングサ この草が如にできると作物が育ちにくい。
- 31 ねむの木 ネムノキ(眠りの木) 葉に触ると萎れて眠るようだから。
ネンネコモツ(ねんね子守) 葉に触ると萎れて眠るようだから。
○ハ-'パ ツッキッテカラー-'ン タ'タジツト 'シャー'ト コ-'ダ'ラ'ー'ツト オ'ルツ。(f. S. 4) 寝を妨げるといふこと、だらうと寝る。

IV. 性向

- 32 熱しやすく冷めやすい人 シンノツマラーン(尻が落ち着かない)、アキノハヤガ
- 33 あわてん坊 ソソガマシガ
- 34 動作の鈍い人 ナメクジ・マメクジ(蛞蝓) 蛞蝓のように動作が遅いから。
また、きわめてテヌラガ(のろい)人には、「マメクジハ下ヌシダ ゴタツ(蛞蝓に歯止めしたようだ)」、ナマンギョング(鯨のようだ)とも言う。
- 35 嘘つき シェンスラマイー(千スラ参り) 千に一つしか本当はない。
○ア'ヤ'ーツガ'タ アテンナラ'ン 'ネ'。シェ'ンスラマイーダ'イケン。
(m. T. 12) あいつの言ったことはあてにならない、嘘つきだから。
- 36 ほらふき ホラブク(法螺吹き)、フテーゴツバックアイユー(大きなことばかり言う)
○ツ-'ルワ カ'ナアワンダ エーチカラ' フ'テ-ハナシバカル シト'ル。(m. S. 2) (-) ○オ'カタ カジエダロ'テ ユータイ 'ナ'ー。
(m. T. 12) 嘘はついていない世に大言壮語している、(+)
おはなすうと云う。
- 37 おしゃべり クチハジケ(口弾け) アゴ(顎)・アゴターン(顎たん)
コスズメ(小雀)、スズメ(雀) 雀のようにやかましく始終しゃべるから。
○ベ'チャ'ベチャ'ベ'チャベチャ シャ'ベツト ガ'イ。(m. T. 12) しゃべりしゃべりだるう! アゴイン(顎犬)おしゃべりな女の人。犬はよく吠えるから。
イ下ケンゴテ(糸繰りのように) 次から次へと絶え間なく話すさま。
- 38 冗談言い ウサンナハナシバカ'スル(胡散な話ばかりする)
- 39 口先だけの人 アゴ(顎)、アゴバカリタタケ(顎ばかりたたく)
ウドンヤノカマ- (うどん屋の釜) 湯(言う)ばかりだから。「アソト オチジコツ」(阿蘇と同じこと) 阿蘇は温泉地で湯(言う)ばかりだから。
- 40 とんちんかんなことを言う人 トツケムニャーコツユ-
- 41 のらりくらり煮えきらない人 ノラックラツシトツ(のらりくらりしている)
- 42 怒りっぽい人 キンピラ きんぴらにはコーシュ(胡椒・唐辛子のこと)がたくさん入っていてびりびりと辛いから。○ドー'ンコー'ン カルシ オ'コナエンケ'ン タイ。キンピラユーター 'コー'シュ イレチ カ'ラカロ' ガ。ソツ'デカラカケン ヨツ'ツキャ デケン'テ。(m. S. 2) どうもこうも辛くてたまらないからだよ、きんぴらというのは唐辛子を入れて辛い、それで辛から(怒りっぽい人) 耐性がないと(言)、カンシヤクモニチとも。
ギキユ(ぎぎゆ) 痲瘋持ちの人。淡水にいる魚の一種。ギキユはゲン(刺)を持っていて、触るとすぐ刺すから。○ア'タン'モ サ'ワリ'モ'デケン' サ'カ'ナ。(m. S. 2) (ギキユ) 刺れることもさわることもできない、ギキユダス 痲瘋を起こすこと。
- 43 気むらな人 テンキモン(天気者) すぐ気分が変わるから。
- 44 泣き虫 ナキベス(泣き虫)
- 45 おてんば娘 オトコマサツ(男まさり)、オトゴンゴタール(男のようだ)
- 46 臍白坊主 ヨジゴロ
- 47 出しゃべり デベソ(出臍) 出ているから。

- 48 どこへでも顔を出す人 デシャバツ
- 49 家にもって外出しない人 ミソバダ (味噌蓋) 味噌桶の蓋は外に出ないから。
 ○キョー¹ワ ミ¹ソバタン デタケー¹ン ア¹メン フリヤニャ エーガ。
 (f. S. 7) 味噌蓋はいつも湿気を帯びているので、雨とかけて冗談を言う。
ヒツコミジャー (引っ込み者) とも。
- 50 小心者 ノミノキンタマ (蚤の金玉) 小さいから。さらには強調して、ノミノ
キンタマオ ヤツワリシタゴタツ (蚤の金玉を八つ割りしたようだ) とも。
- 51 内弁慶 ソトボゴツ、ウチベンケー、ウチベンケーノソトナベケジツ (内弁慶の
 外蛸蛸)
- 52 人づきあいをしない人、社交性のない人 タニシ (田螺)・タニシヤ (田螺屋)
 田螺のように戸を開けて家に関じこもっているから。
- 53 妻に対して頭の上がらない男 カカーデンカ (嬪天下)、シリシカレトラッ (尻に
 しかれている)
- 54 けち ケーチ、コスタクレン
- 55 欲張り ヨクノクマタカ (欲の熊鷹) 熊鷹は両足に獲物を掴んでいるから。
ヨクタレ、キタナカ ○ウ¹ンガタ オッシャーシテ¹ー ヨ¹クタレダンケン。
 (m. S. 2) 自分のは欲んで、頼りだから。

V. 食生活

- 56 大食漢 ウーグリヤ、タイシヨクニン、ウシノゴツタツ (牛のようだ)
 ○ク¹チャ¹ ネ ク¹チャ¹ ネ スルケン ウ¹シノゴツタテ¹モ ユーバッテン
 カ¹ネ。(f. S. 4) 食べて、食べて貯るから牛のようども言われども。
- 57 ばたもち オハーギ、ナカメシャアングルッ (中飯飽ぐるり)
- 58 砂糖味が薄い サトヤントーカ (砂糖屋が遠い)、ウサーブカ 味が薄いことを表
 す形容詞。
- 59 塩味が薄い ウサーブカ、シオケンタラン (塩気が足りない)
- 60 大酒飲み ダイジャ (大蛇) サケクリヤ (酒食らい)
- 61 酒に酔ってくだをまく ヤマイモホッ (山芋掘り) 山芋は地中深く根が伸びて
 いるので、それを掘り出すためには四方から根気強く掘っていかなければならな
 い。その時に誤って山芋を傷つけてしまって「アイタ シモダ! (ああ、しまっ
 た!)」など独り言を言い続ける。同じように延々と人が聴いてもいないのに「
グズツ (くだをまく)」から。スキヨマラス (酔狂まわす)
- 62 酒に酔って顔が赤くなる、そのさま ヒノカミサンノクヅミヤ (火の神様の
 火事見舞い) 赤い顔がますます赤くなるから。 アカズラヒツバツ (赤い顔を
 引っ張る) とも。

VI. 動作・様態

- 63 恥ずかしくて顔が赤くなる、そのさま ヒノカミサンノクヅミヤ (火の神様
 の火事見舞い)、アカズラ ヒツバツ (赤い顔を引っ張る)
- 64 どしゃ降りの雨 ドシャブツ、タケンゴツ (竹のように) 大きな雨粒が落下する
 ときに竹のように太く見えるから。○タ¹ケンゴタル フトカツノ フツ¹
 ソイ。(m. S. 2) 竹のような雨が降るぞ。
- 65 ずぶ濡れ・びしょ濡れになる、そのさま ズブヌレシトツ (ずぶ濡れしている)
- 66 服装がだらしないさま ズンダレ、クワンジンドノゴツ (乞食のように)
- 67 髭がのび放題なさま ユーフミナシ (言う神無し言う神無し?)
ユーフミナシノブツシヨヒダ (言う神無しの不精髭)
- 68 厚化粧をしている人 コデヌリ (鍍塗り) 白粉を鍍で塗ったように厚いから。
ヤクシャドシノゴタツ (役者のようだ) 役者は厚化粧しているから。シラカベ
ンゴデ (白壁のように) カベヌツケタゴタツ (壁を塗ったように)
- 69 背丈の高い人 ノッポ、タケンゴタツ (竹のようだ) 細く高く伸びているから。
- 70 出びたい デブチン 後も出ている人をゼンゴデブと言う。

- 71 汗がひたいから流れ落ちる ダラダラナナルツ (だらだら流れる)
 72 目を丸くする キツネメンゴツ (狐目のように)
 73 口をとがらす オチヨボグチ
 74 焦げ臭いにおい コガレクサカ
 75 遠回り(を)する ナベンツーンノゴツ (鍋のつるのように)
 76 末っ子 スッターリゴ・スッターリ、スゴ
 77 一生懸命頑張る ハマッテスツ 重いものを一生懸命持ち上げるさまを「ベーン
ヒツズルゴテ (うんこが出るように)」とも。

VII. 調査票以外のもの

(1) 自然現象

- 78 アオグモ (青雲) 空一面に暗く曇った空にわずかにのぞいた青空のこと。喜びの
 気持ちがある。○ア¹ラ¹ 'ホン'ナコテ ア¹オグモ¹ン デタ¹ 'タ'イ。
 (m. M. 44) ぬ、オグモが¹は、

(2) 動物

- 79 オゴサンカリヤ (御講さんからい) ひんから? 小さい鳥で背中に小さい白い
 斑点があり、ちょうど「オゴサン (葬式のとき用意したり、お寺で配ったりする
 丸く小さな餅)」をカラッテ (背負って) いるようだから。
 80 ヌス下ゴブ (盗人こぶ) 蜘蛛の一種 夜にしか出てこないし、天井などを這う
 さまから。ゴブは蜘蛛の総称
 81 コメヤンチ (米やんち) 蜘蛛の一種 尻が尖っていて白い絹がある。米つぶのよ
 うに小さいから。また、大きくて絹が黄色くケンカさせて遊ぶ蜘蛛をヤマヤンチ
 (山やんち) と言う。
 82 カブ下 (兜) みやまくわがた。頭部のかたちが兜を付けているようだから。
 83 ドーラン・ドーランツガ (胴乱・胴乱つが) かぶと虫。昔のおじいさんたちが腰
 に煙草入れとして「胴乱」を下げていた。その「胴乱」に形が似ているから。
 ツガは、カブ下・ドーラン・マカリベン・ノコ・ヒラ・イタ・チメ (雌のツガ)
 の総称。
 84 ノコ・ノコツガ (鋸・鋸つが) ツガの一種。角の形が鋸に似ている。
 85 イタ・イタツガ (板・板つが) ツガの一種。体全体が板のように平たい。
 86 アズキヘビ (小豆蛇) やまかさ? 小豆色をしているから。(小豆のような斑
 点があるからか)。
 87 イモクリヤ・イモアライ (芋繰り・芋洗い) いもり。いもりは芋を桶などに入れ
 て洗うときに芋がくるくると回転するように身体を回転させるから。
 88 ビルコウチギ (蛭子鰻) 小さな鰻。ビツ(蛭)の子のように小さいから。
 89 ヘブリムシ (屁ふり虫) 虫の一種。捕まえて体を押さえると臭い煙を出すから。
 90 スズメギヤ (雀貝) 蛭。雀のように小さくて、絹があるから。○ツツミノ
 ウ¹エ¹ー ツ¹ツツミ¹リ スズメギヤ トリ イク パ¹イ。(m. S. 2)
 蛭の比、蛭と¹いこうよ、

(3) 植物

- 91 ウシゴリ・ウシゴツ (牛胡瓜) からすうりの一種。ゴリンボより大きいから
 92 コマツナギ (馬繫ぎ) 馬を繫いでおいても切れないほど丈夫な草だから。
 ○ウ¹マデン¹ ナンデ¹ン ツ¹ニヤダテチャ¹ ヒツ¹キレー¹ンテ イ¹ワー¹スー
 ク¹サーン¹ アー。(f. S. 4) 馬でもなんでも動いても動かないと評判がある。結んで輪を作って人の足
 を引っ掛けて遊ぶいたずらにも使う。
 93 チョーチンザクラ (提灯桜) 八重桜。下がっている花のかたちが似ているから。
 94 テングサン (天狗様) 山羊の花。三方に出たうちの一つの面を鼻に付けるとちよ
 うど天狗の鼻のように見えるから。
 95 ドンベンツツミ (どんべん包み) つわぶき。ドンベンは金玉のこと。つわぶき

の葉っぱは金玉を包んでもよいぐらい広いから。

- 96 ネズミンクソ (鼠のくそ) 木の一種。実が鼠のくそに似ているから。
97 ヘクソワズラ (屁くそ蔓) 蔓草の一種。茶の木などによく巻きついている。臭い匂いがするから。○ヘンゴテ ク'サカケン 'ヘ'クソカズラ。(m.S.2) 跡は
北野からヘクソワズラ(と語)。
98 ヤマイカ (山鳥賊) 筍。茹でると白くてやわらかく食用になるから。
99 センコバナ (線香花) 草の一種。小さく細く、すみれに似た草。莖が細いから。
100 サンゴシカケ (猿の腰掛け) ナバ(きのこ)の一種。
101 ユレイバナ (幽霊花) 彼岸花・曼珠沙華。盆ごろに咲くから。
102 フバナ (宝蔵花) れんげ草。牛や馬に食べさせるとよく肥える。

(4) 性向

- 103 ネコ (猫) おとなしい人。
104 ネコ (猫) 態度に裏表がある人。猫は食物があっても人が見ていると手をださないけれども、ちょっと目を離すとすばやく盗ってしまうから。
105 コッテウシノゴタツ (男牛のようだ) 元気のよい人 コッテウシは元気よく動きまわるから。
106 オヒメサンゴゴタツ (お姫さまのようだ) おとなしい人 (男にも言う)
107 ミヤース (売僧) おせじ ○ア'ヤ'ツァ ド'ケンカシケン イ'テ 'ミヤース
バカ' トツ'テ。(m.S.2) あつはどきでも行つてお隣りかゝりて。
108 テンキヨホー (天気予報) 洗濯をしないきわめて汚れた衣服を着ている人。天気
の悪いときには湿ってくるから。
109 ホーソーキヨク (放送局) うわさを言いふらす人
110 センデンカー (宣伝カー) うわさを言いふらす人
111 イガイガド (毬毬殿) 根性の悪い人 栗の毬のようにとげがあるから。
112 ウシコンジョー (牛根性) 執念深い人。
113 センキョブローカー (選挙ブローカー) ずるい人。うまく立ちまわるから。
114 ソードガミ (騒動神) やかましく動き回る人。○アツ'チコツ'チ ソーン ヤッ
バ ウ'ロタエチ サロ'ク コツ タイ。ウ'ロタエマワツテ サロツ' コツ
タイ。(m.S.2) あつはどきでも行つてお隣りかゝりて。
115 イモガラボク下 (芋藪木刀) 大きいばかりで役に立たない人
116 オジソサンゴゴツ (お地蔵様のようだ) ぼうっとして立っているような人。
○ヤ'キューデ'ン ナンデン イテカ'ー 'ポー'トシテ タツト'ト'ワ テ'レ
ーチシテ タツト'ト'ウ 'マツナグ ソテワ イ'ワー'ス タ。グ'インノゴ
タツ アンビヤ タ'ナ'ー。(f.S.4) 杖(杖用)でもなんでも行つてから、ぼうっとして立っているのは、ぼう
として立っていると駈を乗くぞとは言うよ、杖のような具合だねえ。
117 シーラ (しいら) 空虚な人。シーラは実の入っていない粉。餡の入っていない餅
のことをシーラモチと言う。
118 タワンボ (竹の筒) ぬけている人。竹は中が空だから。
119 ラツガシエ (落花生) ぬけている人。落花生の殻は中が空だから。
120 タケバワツタゴタツ (竹を割ったようだ) 気性の真っすぐな人。竹を割るとばつ
と真っすぐに割れるから。
121 ドグラ (どぐら) 魚の一種(鯉に似た髭のある、近くの川に棲む小さな魚)。頑
固でへそ曲りな人。
122 ナベコサ平 (鍋こさぎ) 宴会などのとき最後まで(飲んで) いる人。鍋を洗うよ
うにかたづけしてくるから。○キ'レーシテ クツ'テ ユーコツ タ'ナ'ー。ア'
トザラエマ'デ シ'テクツ。(m.S.2)
123 チャワン アルチクツ (茶碗を洗ってくる)。宴会などのとき最後まで(飲んで)
いる人。
124 ニガゴツ (苦瓜) 人の気にくわないことばかりをする人。苦瓜は苦いから。
125 ヘンゴタ (屁のようだ) 役に立たないこと。

- 126 ホケンゴタツ (湯気のような) 何にもならない、役に立たない人。
 127 ホトキサシ (仏様) よい人。ほめ言葉。○イツ'チョ'ン マ'ガッタ コッ
 サッサン'ト。(f. S. 4) 外も触ったことなさらぬ人。
 128 マンマンサン (神様) よい人。ほめ言葉。
 129 ヤゲグランス (焼けかす) うるさく言う人。勢いよく湯気を吹き出しやかまし
 くしているかすのさまから。
 130 キレガマ (切れ鎌) 賢くて立派に意見が言え、みんなの代表になれる人。ほめ言
 葉。よく切れるから。
 131 クッスンゴタツ (かすのような) 八方美人。かすは湯気を四方に吹き出す
 から。○アツ'チニャ ヨカ'ゴツ 'コツ'チニャ ヨカ'ゴツ。(m. S. 2) わたしは
 いちばん、こつ出のつと。
 132 カチズチ (金槌) 泳げない人。
 133 シラミダユ (蝨太夫) 蝨だらけの不潔な人。

(5) 食生活

- 134 サルガイ (猿食い) 粟などをうまいところだけ食べて捨て、次のものに手を出す
 さま。○チョイ'ト コー ウ'ツクーシュ ミー'チ クウ'ンダカラー'ン ク
 ッデン ナ'ンデン カン'ビシャージャー' コー チツ'ト ウシテー ウシテ
 ウシテ スツバ サ'ルグイー スツ'テ。(m. S. 2) ちょっと、(一俵) きれいに食べて
 捨て、(また) 捨てながらするのをサルガイする(と)言う。
 135 スリバチミヤ (すり鉢まい) 全部食べてしまうこと。すり鉢の中のものまでみ
 んな残さず食べてしまうから。
 136 クイガミ (食い神) 食欲の異常に強い人 (カチレボーズ)。カチレガミとも。

(6) 動作・様態

- 137 ミミズカキダス (蚯蚓を掻きだす) 余計なことを言ったりしたりして都合の悪い
 事態を招いてしまうこと。○ヤー'タ'リヤ ナンデンカンデン 'ユー'トシャガ
 ニャ ミ'ミズカキダス パ'イ。(m. S. 2) 何んでもかんでも言っていると、とんでもないことになるよ。
 138 メトンボカヤス (め蜻蛉かやす) 回転すること。蜻蛉が回転するように人間が
 くるりと回転するから。
 139 ハチクソシゴ (鼻くそほど) 量の少ないこと。鼻くそは量が少ないから。
 140 ノミンクチヌ (蚤の口目) 小さいこと。蚤の噛んだ痕は小さいから。
 141 ワンゴエンゴツ (蚊の声のように) 小さな声で話すさま。蚊の羽音は微かだから。
 142 マウゴツ (舞うように) 早く走るさま。マウは空を飛ぶこと。○ア'ラー
 'マ'ウゴテ ハシッテ イー'ク。(m. S. 2) わたしは早く歩いて行く。
 143 フガラスズメ (ふくら雀) 着膨れしているさま。○ホー'ラツ キモン キ'テカ
 ラン フクレー'チ サロカス。(m. S. 2) たくさん着膨れ、膨らみかた。
 144 ニギリキンタマ (握り金玉) じっとしていて動かないこと。
 145 アヒンゴツ (家鴨のような) お尻を振って歩くさま。
 146 ヨアケンツラ (夜明けの顔) ぼうっとしている顔。起きてすぐはぼうっとしてい
 るから。
 147 ヨアケンガストンゴツ (夜明けのガス燈のように) 人がぼうっとしているさま。
 夜が明けてまわりが明るくなるとガス燈はぼうっと見えるから。
 148 オヤンニタガメンゴ (親に似た蟹の子) 親子がよく似ていること。蟹は親も子も
 そっくり同じ姿であるから。○アー'ン ワットニャ アスコ'ワ オ'ヤン'ガ'
 メンゴ タイ。(m. S. 2) あのひとと似てる(の人)はそっくりだよ。
 149 クソウッチラキヤータゴタル (糞を撒いたようだ) 散らかっているさま。
 ○ナンデンカンデー'ン 'ソー'コケー ター'ダ ホー ホ'チラキヤットキ
 タ'イ。(m. S. 2) なんでもかんでもそこかしこにただ、目、散らかした時だよ。
 150 カラスノミズアビゴタツ (烏の水浴びのようだ) 風呂に入るのが早いさま。
 カラスノギョーズイ (烏の行水) とも。

(7) 身体部位・身体の状態

- 151 シャズツアタマ (才徳頭) 身体に比べて頭の大きな人 藁を打って柔らかくする木製のワラシャズツのように握る部分は細く打つ部分は太い、その形から。
- 152 カブンス (仮分数) 身体に比べて頭の大きな人 仮分数は分母よりも分子が大きい、つまり頭が下に比べて大きいから。
- 153 ゼツベキ・ゼツベキアタマ (絶壁・絶壁頭) 後頭部が平たいこと。
- 154 スコタゴ (すこたご) 丸禿げのこと。
- 155 ヤンボシ (山伏・山法師) 頭髪がぼさぼさの状態
- 156 スズメンス (雀の巣) くしゃくしゃとした整髪していない頭髪のみ。雀の巣はワラスクド (藎くず) や枯草などでできていて乱雑であるから。
- 157 ボーブランツランゴッ (南瓜の顔のように) 面白い顔のみ。ポーブラは南瓜 (現在、店頭に並んでいるように整っているかたちのものはカボチャと言い、在来のポーブラは、もっとでこぼことして見てくれが悪い)。
- 158 ホトキサン (仏様) 瞳。のぞくと人が映っていて仏様がおられるようだから。
- 159 インノクソ (犬のくそ) 目の上にできるできもの。男性にできるものが、インノクソで女性にできるものがオヒメサンとも。
- 160 オヒメサン (お姫様) 目の下にできるできもの。
- 161 ワニグツ (鰐口) 大きな口。鰐の口は大きいから。
- 162 ノ下ボ (一) ズ (喉坊主) のどぼとけ。お坊さんの頭は丸いから。
- 163 ヒジボ (一) ズ・ヒジボズ (肘の坊主) 肘。お坊さんの頭のように丸い。肘のことをヒジボとも。
- 164 エダ (枝) 腕のこと。
- 165 ツ下 (苞) ふくらはぎ。苞の形に似ているから。
- 166 タゴミミ (団子耳) つぶれたような耳。
- 167 タゴバチ (団子鼻) 丸い鼻。タゴ (団子) のように丸いから。
- 168 シシバチ (獅子鼻) 大きい鼻。
- 169 ヤマザクラ (山桜) 出っ歯。葉 (歯) は花 (鼻) より先に出るから。
- 170 ソ下ガマ (外鎌) がに股。鎌を外に向けたようになっているから。
- 171 ガネマダ・ガニマダ (蟹股) がに股。蟹の足の格好が似ているから。
- 172 ヒザボ (一) ズ (膝坊主) 膝頭。
- 173 ア下ボ (一) ズ (あど坊主) 踵。お坊さんの頭のように丸い。
- 174 ギメ (ぎめ) 痩せた人。ギメは蝗やバッタのこと。肉が少なく骨ばかりのように細いから。○ギ'メンゴ シト'ルバッテン ソー'ニャ' ノ'ミジケン ク'イジキデ'ン ツ'ヨカ パー'イ。(m. T. 12) 腹のように細いけれども、食糧がある。
- 175 ハカワラギメ (墓ぎめ) 栄養失調のように痩せた人。ハカワラは墓のこと。墓にいたる蝗やバッタは食物が少なく痩せているから。
- 176 ヒカゲンモモノキ (日陰の桃の木) 弱々しくよろよろしている人。日陰に育った桃の木は細く弱々しいから。
- 177 モヤシ (もやし) 痩せてひよろひよろしている人。
- 178 オガメンゴタツ (おがめのようだ) 人が痩せているさま。オガメはかまきり。カマキンゴタツ (かまきりのようだ) とも。
- 179 クロンボ (黒の棒) 色の黒い人。黒砂糖をまぶした棒状のお菓子に見立てた。
- 180 キンギョバラ (金魚腹) 妊婦のお腹の大きくなっているさま。

(8) その他

- 181 インノケンカノゴテ (犬のケンカのように) 顔をみるとすぐケンカすること。
- 182 イッシュギヤ (一升買い) 貧乏なこと。米をまとめて買うのではなく、一升ずつしか買うことができないから。
- 183 イッチョボゴシ (一つ残し) 遠慮のこと。食物を食べるとき、最後に残ったものにはなかなか手を出せないから。

- 184 インノゼンミツタットオナジコツ (犬がお金を見たのと同じこと)
何にもならないこと。猫に小判。
- 185 トチノニガヤ (隣の苦菜) なんでも隣がよく見える(思える)こと。
- 186 ヘクソフズランハナサカリ (屈くそ蔓の花盛り) どんな女性でも娘盛りには美しいこと。屈くそ蔓にも美しい小さな花が咲くから。
- 187 サカネジ (逆ねじ) 裏切り。ネジを反対に回すと取れてしまうから。
○オ「ナージョ スッド」テ オモータトコ「ガ サ「カネジ クタ。(m. S. 2)
(自分と同じようにするだろうと思ったところが裏切られた。
- 188 ショウゲ・ショウゲミミ (しょうげ) 聞いてはいるがわかっていないこと。
ショウゲは粗などを入れる、笊の大きなもの。○ア「ヤツガ ミ「ミヤー 「ショウケ「ダイケン コッチカ「ル コツ「ツァ「ン デチハツ「テ「ク。(m. S. 2)
おつもの取ショウゲだから、こつからこつへ出て行ってしまう。
- 189 ニシメ (煮しめ) 洗濯をしないきわめて汚れた衣服。
- 190 ジョバンダマ (小便球) 放物線を描く勢いのない球のこと。
- 191 ハダガゼン (裸銭) 熨斗などに包まない剥出しのお金。
- 192 サワシ・サワシ (鷺足?) 竹馬。稲架を支える竹や木の棒もサワシと言う。
- 193 ツゲゴヤガ (付け膏薬) 入れ知恵のこと。膏薬をべったりと貼るように知恵をつけるから。その効能は長くは続かない。
- 194 カチクギバ ヒキマゲタゴタ (金釘を引き曲げたようだ) 下手な字。
○ホ「ン」ニ ヘタクソデ モ「カナ「クギバ ヒ「キマゲタゴタ「ジ「バカカス。(m. S. 2) 本字に引くまでもうか釘を引曲げたような字が書ける。

まとめ

- (1) 「～ゴタル(ようだ)」「～トオナジコツ(と同じこと)」などを用いて、多くの直喩の表現が仕立てられている。ここに取り上げたものはそのうちで固定しているものに限っている。こうした盛んな直喩表現の活動を基盤として隠喩・換喩(提喩)が築えている。
- (2) 喩材としては身近なものがほとんどである。色、形、動きなど直截的な類似に基づくわかりやすいものが多く、イメージ性の上で喚起力の強いものと言うことができる。
- (3) 情意の面に注目すると、ほめる方向(正の方向)よりも揶揄・非難・嘲笑といったけなす(負の方向)に傾斜しているのではなからうか。
- (4) 例えば、湯を沸かす道具としてのクワンズが生活の場から消えると、口うるさい人をヤゲクワンズに譬え、八方美人をクワンズンゴタツと言うようなことはそのイメージが失われるであろう。また「もの」はあっても生活のさまが変化することによって、身近なものでなくなった結果、その言い方が用いられなくなっていく。例えば、ウシゴリ・テングサジ・コマツナギなど植物自体は、依然として存していても、それらを用いて遊ぶことは、話者たちの子どもの頃のようにはないのである。一方で、ホーソキヨク(放送局・うわさを言いふらす人)、センデンカー(宣伝カー・うわさを言いふらす人)など新しい比喩が生まれているけれども、その数はわずかである。
- (5) 語呂を利用しての言葉遊びでの造語が存する。例えば、のりりくらりしている人を、ケンドーコーフ(県道工夫)と言う。のりりくらりしているさまを表す副詞「下一口コーロ」を「道路公路」とをかけ、その工事をする人ということである。
- (6) 個々の比喩表現が実際の談話のなかでどのような表現機能・表現効果をもって働いているのかを見定めていくことが必要である。巧みな比喩は、その場をわっと沸かせ自ずと和やかな雰囲気をもたらし、その反面で情緒的な話に終わってしまいがちである。

(いのうえ ひろふみ 大阪教育大学)